

# 美ら海水族館 海のふ・し・ぎ 発見シート

## 初級編

### 解 説

#### 問1 . 正解 ヒトデの仲間

解説：水槽にたくさん展示されている星形の生き物はヒトデの仲間です。ヒトデは棘皮動物というグループの生き物で、見た目は全然違いますが、ウニやナマコの仲間もこのグループに入ります。

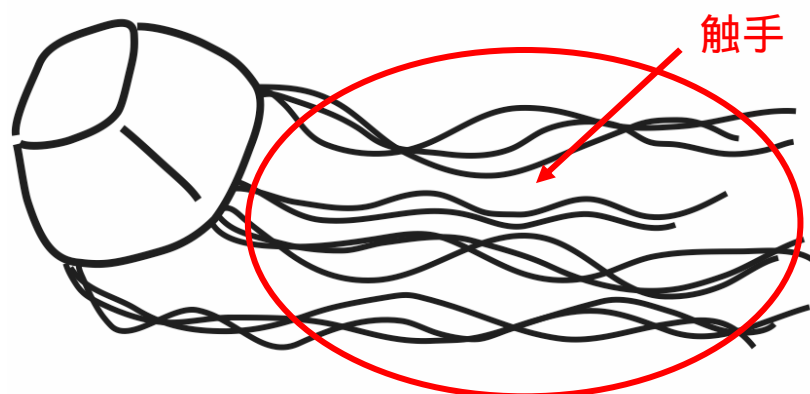
#### 問2 . 正解 サングの仲間

解説：水槽に展示されている植物の枝のような形をした生き物はサングの仲間。動かないサングはまるで植物のように見えますが、イソギンチャクやクラゲの仲間に近い刺胞動物というグループの生き物です。多くのサングは、たくさんの個体からなる1つの塊（群体）を形成しています。群体の形は種類によって異なり、枝状、テーブル状など様々です。

#### 問3 . 正解 C（イソギンチャク）

解説：カクレクマノミが隠れているのはイソギンチャクの中。実はイソギンチャクの触手には、毒針を持つ刺胞があります。なので、多くの魚はイソギンチャクに近づく事はできません。しかし、クマノミの仲間は、特別な粘液を出してこの毒針に刺されないようにしているので、イソギンチャクの触手に触れても平気。クマノミにとってイソギンチャクは、外敵から身を守るための絶好のすみかなのです。

問4 . 正解 (イラスト参照)



解説：沖縄県内に5～10月頃に発生するクラゲです。カサの直径は10cmほど。カサの四隅からは、長いものでは1mを超える触手が束になって伸びています。触手の刺胞毒は非常に強力で刺されるととても痛く、ショックを起こすこともあります。

問5 . 正解 B (サメ)

解説：「黒潮の海」大水槽で飼育されている一番大きな生き物は「ジンベエザメ」。この大水槽では3匹のジンベエザメが飼育されています。3匹の中で一番大きな「ジンタ」の全長は約7.9mもあります。とっても大きなジンベエザメは、もちろんサメの仲間。体は大きいのですが、性格は大人しく、小さなエビや小魚など小動物を食べています。当水族館では、エサとしてオキアミなど小さなエビの仲間を与えています。

- 1 印刷してご利用の際は、必ず「沖縄美ら海水族館」のロゴマークが入るように印刷して下さい。
- 2 問題及び解説内容を無断で変更しないで下さい。